

# 第3学年1組 総合的な学習の時間学習指導案

単元名：やさしい町って どんな町？  
～両城に笑顔の花を咲かせよう！～

本単元で育成を目指す資質・能力【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】【主体性】

指導者 呉市立両城小学校 片元 結貴子

日時 令和3年10月26日（火）  
場所 呉市立両城小学校 第3学年1組教室  
学年 第3学年1組（男子6名 女子9名 計15名）

## 単元について

### ○単元観

本単元は、本質的な問い「わたしたちは、地域とどう関わり、どう生きるのか」を基に構想した。地域の「ふれあい広場」の取組や課題について調べ、やさしい両城の町にしていくために「自分のできること」という視点から自らの課題を設定し解決していくことを通して、本中学校区で設定した資質・能力【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】【主体性】を育成することをねらいとしている。

本校区には、「ふれあい広場」という場所がある。「ふれあい広場」とは、2012年に三条の地に育った方が、大人も子供も自由に交流し、ふれあうことができる場所を作りたい、地域に少しでも活気を呼び戻したいという思いから誕生した。「ふれあい広場」はボランティア18名で構成され、地域の人が誰でも気軽に立ち寄って話ができる場所である。

このような児童の身近な場所から学習課題を設定することで、児童は、地域の方々から自分たちにできる地域貢献について学び、行動に繋げるといった目的意識をもって探究することができると思う。

本単元では、地域の活性化を願い、地域貢献をする人々に触れ、自分たちにできることを企画・実践させることで、地域の一員として、地域との関わりや生き方について、児童一人一人が考えをもつことができるよう展開する。その中で、児童は、身近な存在である地域の方々とのやりとりを通して、普段は見えにくい地域を支えている人の存在に気付き、自分たちが企画した活動を実行しようとする思いをもつことを期待している。このような学びの姿は、指導者が設定した本質的な問いを具現化するものであり、本中学校区で設定した資質・能力の育成につながると考える。

### ○児童観

本学級の児童は、地域に関心をもっている児童が多い。そして、常日頃から地域の方に挨拶をしたり地域の施設を利用したりしている。これまでの学習を通して、友達と話し合いながら、課題解決に向け、進んで資料や情報を集めたり、自分の考えをもったり広げたりできるようになっている。

しかし、地域の方の取組や「ふれあい広場」について、「ふれあい広場」がある本当の意味や「ふれあい広場」の課題を知らない。また、自分一人で課題解決に向け、進んで資料や情報を集めたり、自分の考えを深めたり広げたりすることに関しては、主体的になれないところがある。そして児童が自ら問いを見出すことや、新たな問いを見出すことに課題がある。そのため、児童の視点に立って、主体的な学びを更に促していく手立てが必要であると思う。

### 本単元に関わる事前アンケート

- |                                        |      |
|----------------------------------------|------|
| ① 「ふれあい広場」について知っている。                   | 100% |
| ② 授業の中で、課題について、「なぜだろう」「やってみたい」と思う。     | 100% |
| ③ 授業の中で、課題解決するために、進んで資料や情報を集めている。      | 80%  |
| ④ 授業の中で、友達と話し合いながら、自分の考えを考えたり広げたりしている。 | 93%  |
| ⑤ 学習後、「もっと調べたい」「もっと考えてみたい」と考えている。      | 86%  |

## ○指導観

指導に当たっては、次の2点に留意する。

### 【探究的な見方・考え方を働かせるための各教科等との関連】

探究的な活動を支える土台として、探究的な見方・考え方を働かせることをより重視し、各教科等を効果的に関連させ、横断的・総合的な学習を行う。

まず、社会科単元「学校のまわり」において、地域の様子について学習する。また、児童は1学期の総合的な学習の時間「安全マップで安全アップ」において地域にはどんな所があるか学習を行っている。その中で、地域の方が集まっている場所があることに気付かせるとともに、その様子を調べる中で、ふれあい広場の方の願いや思いを知り、地域にとって自分達ができることはないかという問いをもたせる。

また、学習のまとめとして、国語科単元「案内状の手紙を書こう」において学習したことを生かして発信する場を設定する。自分たちが地域に貢献できることとして、どのような表現であれば、自分たちが伝えたいことを伝えることができるのか、考えさせていく。

このように、各教科等との関連を児童にも意識させ、自分たちの課題解決のために、各教科等での学びが活用できることを実感させたい。

### 【児童が自ら問いを見いだすためのしかけ】

単元を通して、本質的な問い「わたしたちは、地域とどう関わり、どう生きるのか」を意識させ、「自分と地域との関わり」や「自分の生き方」に関わって、児童が自ら問いを見出すことや、新たな問いを見出すことができるよう、しかけを入れて単元構成を工夫する。

単元前に、ふれあい広場やボランティアと利用者の写真を提示し、自分たちにとって身近なふれあい広場について知らないことがたくさんあることに気付かせ、問いをもたせる。

単元の導入では、「ふれあい広場」の10周年記念行事に参加したりその様子の動画を見る活動を取り入れたりする。様子や活動に焦点を当て、問いをもたせる。

第2次では、「なぜふれあい広場にいつも人が集まっているのだろうか。」について調べる。その中で、毎日遠い所からふれあい広場に通っている地域の高齢者の方の思いを想起させる。その上で、児童があまり知らないふれあい広場の利用者へインタビューすることで利用者の立場でも思いにふれさせ、「ふれあい広場」の存在の大きさに気付かせたい。

第3次では、「もっとやさしい町にしていくために、自分たちには何ができるのか」という課題をもち、自分たちがそれぞれ企画し、実行する活動を考えさせる。

単元を通して、身近にあるふれあい広場を調べる活動が、「自分は地域とどう関わるか」といった一人一人の課題意識をもつことにつながると考える。また、地域の一員として、自分たちにできる地域貢献の取組を実行させ、達成感を味わわせることで、自分たちの力が地域を創っていくことを感じ、今後、地域の課題解決に向け、更に主体的に地域と関わっていく姿を期待している。

## 単元の目標及び評価規準

### 【単元の目標】

ふれあい広場の活性化に取り組んでいる人々と関わったり、活性化のための取組や思いを知ったりすることを通して、ふれあい広場を守るために取り組んでいる人の存在を知り、ふれあい広場の歴史やボランティアと利用者の願いや自分ができる地域貢献について考え、実践に生かすことができる。

### 【評価規準】

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体性
<p>① ふれあい広場は地域の人にとって必要な存在であり、それらを守るために取り組んでいる人がいることを理解している。</p> <p>② インタビューや調べ学習によって、目的や対象に応じた調査活動を実施している。</p> <p>③ ふれあい広場と自分たちとのつながりを理解することは、探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。</p>	<p>① ふれあい広場がどのようにしてつくられてきたのか、やさしい両城の町にしているために何が必要かなど、課題意識をもっている。</p> <p>② ふれあい広場に関する課題を解決するために必要な情報を収集し、自分の考えを整理している。</p> <p>③ 相手や目的に応じて、ICT機器等を活用し、分かりやすく表現している。</p>	<p>① 課題解決のための方法を考えようとしている。</p> <p>② 地域との関わりの中で、異なる意見や他者の考えを受け入れながら、自分ができることを考え、実践しようとしている。</p>

## 指導と評価の計画

(全 45 時間) 本時は 16/45



〈本質的な問い〉わたしたちは、地域とどう関わり、どう生きるのか			
次 (時)	学習内容 【他教科等との関連】	評 価	
		評価規準 (評価方法)	資質・能力
一 (15)	<p><b>課題の設定</b></p> <p>○ ふれあい広場に行ってみよう。(1時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ふれあい広場がどのようにしてつくられてきたのか、やさしい両城の町にしていくために何が必要かなど、課題意識をもっている。(ワークシート, 発言)</li> </ul>	<p>思考力・判断力・表現力①</p>
	<p><b>情報収集</b></p> <p>○ ふれあい広場ってどんなところなのだろう。(3時間) 【総合的な学習の時間3年】 「安全マップで安全アップ」 【社会科3年】 「学校のまわり」</p> <p>○ ふれあい広場は、なぜつくられたのだろう。(3時間)</p>		
二 (20)	<p><b>整理分析</b></p> <p>○ ふれあい広場で行われているイベントやふれあい広場にあるものについて調べよう。(4時間)</p> <p>○ 情報を収集するとともに、集めた情報を整理し、分析する。(4時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題解決のための方法を考えようとしている。(ワークシート, 発言)</li> <li>インタビューや調べ学習によって、目的や対象に応じた調査活動を実施している。(行動観察, ワークシート, 発言)</li> </ul>	<p>主体性①</p> <p>知識・技能②</p>
	<p><b>新たな課題の設定</b></p> <p>○ ふれあい広場にいつも人が集まっている理由を話し合おう。(1時間) 【本時】</p> <p><b>情報収集</b></p> <p>○ ふれあい広場の利用者の人にインタビュー調査する。(10時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ふれあい広場に関する課題を解決するために集めた情報から、自分の考えを整理している。(付箋, ノート, 発言)</li> <li>インタビューや調べ学習によって、目的や対象に応じた調査活動を実施している。(行動観察, ワークシート, 発言)</li> <li>ふれあい広場は地域の人にとって必要な存在であり、それらを守</li> </ul>	<p>思考力・判断力・表現力②</p> <p>知識・技能②</p> <p>知識・技能①</p>

<p style="text-align: center;">二 (20)</p>	<p><b>整理・分析</b></p> <p>○ ふれあい広場に、いつも人が集まっている理由をまとめる。(9時間)</p>	<p>るために取り組んでいる人がいることを理解している。 (ワークシート, 発言)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ふれあい広場に関する課題を解決するために必要な情報を収集し, 自分の考えを整理している。 (行動観察, ワークシート, 発言)</li> <li>課題解決のための方法を考えようとしている。 (ワークシート, 発言)</li> <li>ふれあい広場は地域の人にとって必要な存在であり, それらを守るために取り組んでいる人がいることを理解している。 (ワークシート, 発言)</li> <li>相手や目的に応じて, ICT機器等を活用し, 分かりやすく表現している。(ワークシート, 発言)</li> </ul>	<p>思考力・判断力・表現力②</p> <p>主体性①</p> <p>知識・技能①</p> <p>思考力・判断力・表現力③</p>
<p style="text-align: center;">三 (10)</p>	<p><b>整理・分析</b></p> <p>○ ふれあい広場を知ってもらうために, 自分たちはどのような地域活動ができるか考え, 企画する。(3時間)</p> <p>○ 考えたアイデアが実現可能かどうか検討する。(3時間)</p> <p><b>まとめ・表現・振り返り</b></p> <p>○ 自分たちで取り組んだ「両城のやさしさ探し」から見えてきたことは何だろう。(1時間)</p> <p>○ ふれあい広場や地域の人たちに自分たちで考えたことを発信しよう。(3時間)</p> <p>【国語科3年】 「案内の手紙を書こう」</p>	<p>・ 地域との関わりの中で, 異なる意見や他者の考えを受け入れながら, 自分ができることを考え, 実践しようとしている。(ワークシート, 発言)</p> <p>・ ふれあい広場は地域の人にとって必要な存在であり, それらを守るために取り組んでいる人がいることを理解している。 (ワークシート, 発言)</p> <p>・ 相手や目的に応じて, ICT機器等を活用し, 分かりやすく表現している。(行動観察, ワークシート, 発言)</p> <p>・ ふれあい広場と自分たちとのつながりを理解することは, 探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。 (行動観察, ワークシート, 発言)</p> <p>・ 相手や目的に応じて, ICT機器等を活用し, 分かりやすく表現している。 (行動観察, 作品, 発言)</p>	<p>主体性②</p> <p>知識・技能①</p> <p>思考力・判断力・表現力③</p> <p>知識・技能③</p> <p>思考力・判断力・表現力③</p>

## 本時の展開

### (1) 本時の目標

ふれあい広場は、地域の人達にとってどのような存在なのか考えることができる。

### (2) 本時の評価規準

ふれあい広場に関する課題を解決するために必要な情報を収集し、自分の考えを整理している。【思考力・判断力・表現力②】

### (3) 学習の展開 (第 16 時 / 全 45 時間)

分	学習活動	指導上の留意点	資質・能力の評価 (評価方法)
4	1 これまでの学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>写真などを見せて共有し、これまでの学習を確認する。</li> <li>ふれあい広場を運営している力安さんの写真を見せて、どんな人なのか、力安さんの思いや「ふれあい広場」に対して、これまで考えた自分たちの考えを発表させる。</li> </ul>	
1	2 本時の学習課題を知る。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>㉔ なぜ、ふれあい広場にたくさんの人が集まるのだろう。</p> </div>	
35	3 ふれあい広場に人が集まる理由を話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>個人で予想して発表する。</li> <li>みんなで話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>イベントに参加したことや見学や力安さんにインタビューしたことから考えさせる。</li> <li>一人5枚付箋を配付し、思いつくキーワードを書かせて発表させる。(個人)</li> <li>自分と同じ意見の所に付箋を貼らせる。</li> <li>カテゴリーに分けてまとめる。</li> </ul>	
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>㉕ ふれあい広場に行くと、買い物ができたり人と話ができたりするから、たくさん集まるのではないか。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ふれあい広場に関する課題を解決するために必要な情報を収集し、自分の考えを整理している。【思考力・判断力・表現力②】</li> </ul> <p>(付箋、ノート、発言)</p>
5	4 本時を振り返るとともに、今後の学習の見通しをもつ。		
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>振り返り例</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>利用する人達にとって「ふれあい広場」に来る本当の理由を聞いてみたい。</li> <li>実際に利用者にインタビューして聞いてみたい。</li> <li>他にも理由があるかもしれないから聞いてみたい。</li> </ul> </div>		

# 成果と課題

## (1) 成果

### ① 知識・技能

ふれあい広場のイベントに参加して調べたり、運営者や利用者にインタビューしたりする活動を通して、児童にとって身近で以前から利用していた施設「ふれあい広場」が、地域の人々の努力や工夫によって支えられていることが単元を通して分かり、それらを守るために取り組んでいる人がいること、その人たちのやさしさや素晴らしさ、工夫について理解することができた。



まずは、運営者側からリサーチ

目的や対象に応じたインタビューや調べ学習を通して、運営者と利用者の両方の立場の思いが分かった。利用者で遠い所からでも通っている高齢者の方の思いにふれることができたと同時に、高齢化により地域がどんな課題をかかえているのかが分かってきた。そのことで、この施設の存在の大きさについて身をもって理解でき、自分たちがふれあい広場と関わることや、下校時に顔を出したり、挨拶したりすることでも地域に貢献していること、そして何より自分たちがこの地域に暮らしていることにも意義があることに気付いた。

このように、ふれあい広場と自分たちとのつながりを理解した児童は、ふれあい広場について 探究的に学習した成果であることに気付くことができた。

めあて  
↓  
カサさんの思いを考えよう☆

どうして  
ふれあい  
あそび場が  
にぎやかな三條は!!  
(三條の店がなく  
なつた) 弓どまの  
声

元気な人か  
いまいかに  
おもしろい  
人生を  
楽しむ  
心と口が  
あえる

場所  
↓住む  
人  
おもしろい  
おもしろい  
おもしろい

反対する人  
いるけれど  
あうんを  
してくれる人

・にぎやかな三條	ふれあい 広場
・心と心が あがる場所	
・おもしろい 人かいない ように!!	
・おもしろい 声	

ふりかえり  
みんながカサさんの思いをみんなと考えると、やさしくて、  
元気な人だと思いました理由は、地元の人が、いやなことをわかれ、  
おもしろいからカサさんは、やさしい人だと思いました。

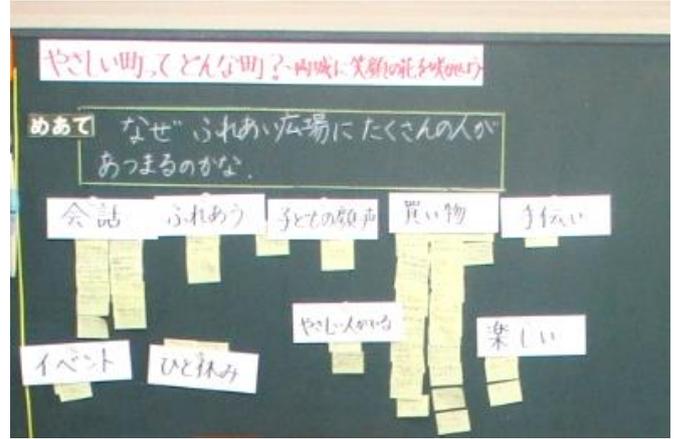
運営者の思いを知る



利用者側の思いにもふれる

## ② 思考力・判断力・表現力

社会科との関連からふれあい広場へ行き、調べていく中で「なぜこんなに人が集まるのか」「どのようにしてつくられてきたのか」という問いが児童の方から生まれ、課題意識をもつことができた。また、ふれあい広場に人が集まる理由を、見学やインタビュー内容から話し合うことで、必要な情報を収集し、自分の考えを整理することができた。そして、その課題を解決するために利用者側の立場に立った情報収集へとつながり、両城の町をやさしい町にしていくためには何が必要かという課題を明らかにすることができた。

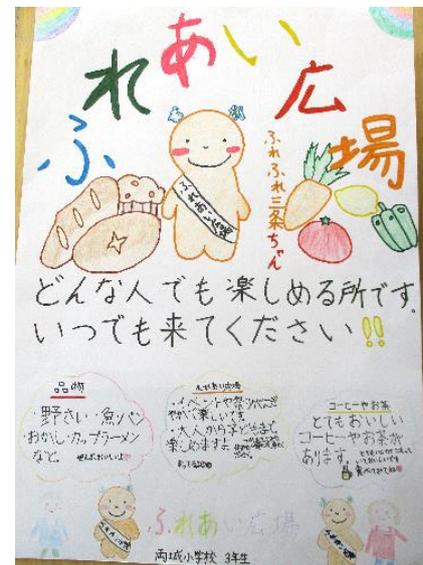


これまで収集した情報を手がかりに  
考えた事を分類

課題解決をする過程で自分たちにもできることがあるのではないかと考える道筋が生まれた。利用者や地域の人たちに向けたポスター作りやカード作りを通して、相手や目的に応じて言葉や絵、折り紙等で分かりやすく表現することができた。国語科との関連を図ることもできた。



児童のアイデアでできた  
メッセージカードやポスター



### ③ 主体性

ふれあい広場になぜ人が集まるのか理由を出し合う活動を通して、課題解決のための方法を考えることができた。また、ふれあい広場のことを広く知ってもらうために自分たちにできることを考え企画することを通して、地域の中で実践することができた。

「やさしい町ってどんな町？ ～両城に笑顔の花を咲かせよう！～」という単元を通して、「わたしたちは、地域とどう関わり、どう生きるのか」の問いに迫る中で、児童自らが目的意識をもって、地域貢献について学び実践する姿が見られた。その姿は、「地域に少しでも活気を呼び戻したい」という熱い思いから誕生したふれあい広場のボランティアの方々と、何度もふれ合うことによって、普段気付かなかった人々の存在や思いに気付き、自らの在り方を見直すことで生まれた。本校のすぐそばにあるこの施設は、これからも大切な地域教材として守りたい。

また、グループで話し合いを続けることで、異なる意見や他者の考えを受け入れながら関わり合いがうまくできるようになり、この力は他教科等でも生かされた。

これからも両城に  
笑顔の花を  
咲かせたいな



## (2) 課題

- ・ 発信するものとしてポスターに取り組んだ班が多かったが、内容がパターン化して似たようなものになってしまった。収集した情報の生かし方や表現力を高める必要がある。
- ・ 学習の過程で、児童の判断だけでは次の活動へのつながりが難しかった。発想がまだ乏しく、教師がアイデアを提案するとそれに流されるところもあった。豊富な活動経験が必要である。
- ・ 地域の効果的な教材を継続したり、開発したりして、全教職員で共有、蓄積していくことが大切である。総合的な学習の時間の他学年との関連、そして生活科との関連を図り、地域教材を活用した生活科・総合的な学習の時間を核として、教科横断的な単元の年間指導計画を進めていきたい。